

〔地域散歩・鎌倉〕

鎌倉散歩（前編）

赤池洋二

All about SWINE 61, 43-46

私が住む横浜市栄区は昭和61年に戸塚区から分離新設された区域で、南と西は鎌倉市、東は横浜市金沢区、北は港南区と戸塚区に接します。家から遊歩道を30分ほど歩き、そこから高低差100メートル余の山道を登る（約20分）と円海山「いっしんどう広場」にたどり着きます。円海山から脇道にそれて少し下ると、落語の「強情灸」の舞台とされる「峰の灸」の円海山護念寺があります。円海山から約20分の大丸山（標高156.8m、横浜市最高点）からは横浜市金沢八景、シーパラダイス、東京湾が一望され、対岸には木更津、富津方面を遠望することができます。さらに20分進むと朝比奈峠上です。この先の右側は横浜市栄区、左側は鎌倉市です。この先30分ほどで天園の展望台に着きます。ここからは南に鎌倉・逗子海岸、北西に横浜市栄区、戸塚区方面を眺めることができます。円海山から天園までが円海山ハイキングコースです。

天園から尾根道を直進して北鎌倉方面に向かう尾根道が鎌倉アルプスと呼ばれるハイキングコースで、その途中には鎌倉時代の上流階級（武士、神官、僧侶など）の墓地（百八やぐら）があり、その先が建長寺の裏山にあたる「勝上嶽（しょうじょうけん）展望台」です。ここからは建長寺の奥の院である半僧坊や建長寺の堂塔・伽藍を俯瞰

することができます。建長寺を出ると、別名閻魔寺（えんまでら）と呼ばれる円応寺（運慶作閻魔大王像がある）、明月院（あじさい寺）、浄智寺、長寿寺（足利尊氏の墓がある）、東慶寺（縁切寺）、円覚寺（北条時宗の墓がある）などがあります。また、円覚寺裏山の谷を挟んで六國見山（ろっこくけんざん：武蔵・相模・下総・上総・安房・伊豆を見渡せた）があります。山頂近くには「稚児の墓」（伝承では、江の島の富豪の乳飲み子が鷹にさらわれ、その亡骸が捨てられていた場所に墓がつくられた）があり、周囲は今でも掃除が行き届いており、供えられた生花の萎れているのを見たことはありません。このほか、北鎌倉から瑞泉寺を抜け、源氏山公園を經由して高德寺（鎌倉大仏）へ抜けるハイキングコースと、亀ヶ谷津切通しを抜けて薬師寺、海蔵寺、化粧坂切通し、寿福寺方面へ向かうコースがあります。天園から北鎌倉までと、天園から瑞泉寺に下るコースが天園ハイキングコースです。これらのハイキングコースは四季を問わず楽しめる散策路で、脇道にそれるといくつもの発見があります。その他にも鎌倉七切通しめぐりや、田谷の洞窟、日蓮上人が斬首を逃れた龍口寺（江ノ電江の島）など見どころはたくさんあります。

今回は円海山・天園ハイキングコースを経て瑞

泉寺に下り、その先にある寺社、史跡について紹介したいと思います。自宅から天園、瑞泉寺を経て以下に紹介する史跡を巡りながら鎌倉駅までは5~6時間かかります。

天園から瑞泉寺方面への下山道を辿ると、途中の岩場に貝笛吹地蔵、その先に北条高時とその一族の墓（やぐら）があります。下りきったところが瑞泉寺の山門です。そこを少し下ると永福寺（ようふくじ）遺構、鎌倉宮（護良親王が幽閉されていたと伝えられる土牢がある）、護良親王の墓、覚園寺などがあります。

鎌倉宮から鎌倉駅方面に向かうと、すぐ右手の山裾に荏柄天神、その先に源頼の墓、法華堂（持仏堂）跡があります。その付近一帯の住宅地が鎌倉（大倉）幕府跡地といわれ、そこを過ぎると鶴ヶ岡八幡宮に出ます。

鶴ヶ岡八幡宮から材木座海岸に向かって伸びる参道（段かざら）の左側に幕府跡地、さらにその左手滑川の左岸には北条一族の終焉の地、腹切りやぐらがありその近くには北条一門を祀る宝戒寺があります。

1. 貝吹地蔵

新田義貞との戦に敗れ、自害して果てた北条高時の首をもって山中を逃げ回っていた敗残兵が山中で道に迷ったとき、岩山の中腹に鎮座するお地蔵様が貝を吹いて首を葬る場所を教えたといわれる小さなお地蔵様です。また、一説には、新田軍が攻めてくる様子を貝を吹いて教えたともいわれています。よく気を付けていないと見落としてしまいそうです。



貝吹地蔵

2. 北条一門の墓

東勝寺で自害して果てた北条高時らの首を隠したと伝えられる墓所（やぐら）です。笛吹地蔵より鎌倉寄り、ハイキングコースから少し離れた藪の中にあり、周囲はかなり荒れています。ハイキングコースに北条一門の墓所を示す石柱がありますが、文字の部分は殆ど土に埋まってしまい、何の石柱か分からなくなっています。付近に説明も看板もないので、文献等を良く調べないと見落としてしまいます。この付近一帯は瑞泉寺の裏山で、寺域内です。ここから少し下りると、右下に瑞泉寺の麓が見えてきます。左に分岐する細道を下ると、鎌倉の歴史上有名な「朝比奈の切通し」に出ることができます。ここを直進して急坂を下ると瑞泉寺の山門脇に出ます。

3. 瑞泉寺

1327年、夢想国師（後醍醐天皇や足利尊氏も深く帰依した）によって開山された臨済宗円覚寺派の古刹です。鎌倉公方（足利）の菩提寺で、山号は錦屏山（秋には周囲の山の紅葉が錦の屏風のように美しいという意）といい、国の名勝に指定されています。

4. 永福寺（ようふくじ）遺構

源義経追討に絡む奥州合戦（1189）に勝利した源頼朝は、源義経、藤原泰衡をはじめ戦死した数万の霊を慰めるため、寺院の建立を発願しました。永福寺の本堂は1192年に完成したそうです。



永福寺遺構
左奥は復元された寺院の基壇

奥州平泉の中尊寺の美しさに感動した頼朝は、中尊寺の堂塔伽藍を模したとも伝えられています。本堂が二階建てであったことから二階堂とも呼ばれ、この付近一帯の地名（鎌倉市二階堂）の由来となったそうです。余談ですが、永福寺遺構と道を挟んで、シルクロードの絵で有名な平山郁夫画伯の自宅があります。以前は「シルクロード研究所」と「平山」の標札を見ることができましたが、画伯が亡くなった後は「平山」だけの表札に変わりました。

鎌倉市は世界遺産登録を目指して数々の史跡復元・整備をすすめてきました。2007年から2017年にかけて、茅野原であった永福寺跡地の買収と発掘・復元工事を行い、二階堂、阿弥陀堂、薬師堂の基壇と苑池の復元を完了し、史跡として一般に公開しています。残念ながら、世界遺産登録はなりませんでした。



永福寺の復元図

5. 鎌倉宮（大塔宮）

後醍醐天皇の第三皇子護良親王（1308～1335）を祀る神社です。護良親王は足利尊氏らとともに、父である後醍醐天皇を助けて鎌倉幕府（北条執権）を滅亡させますが、後に尊氏の奸計に嵌まって、天皇からも疎まれ、尊氏の弟である足利直義の監視下で、鎌倉東光寺（詳細不詳・現鎌倉宮の地）の土牢に幽閉されといわれています。1335年、鎌倉幕府の再興をもくろむ北条の残党、北条時行に攻められた直義は戦に敗れ、敗走する際に家臣の淵辺義博に親王の暗殺を命じました。格闘の末、親王の首を落とした義博ですが、親王の形相があまりにも凄まじいのに恐れをなし、首



鎌倉宮（大塔の宮）本殿



護良親王が幽閉されていたといわれる土牢



護良親王の首が放置されていたと伝えられる場所

級を放りだして逃げ去ったそうです。たまたまそこを通りかかった理知光寺の住職が、親王の首を丁寧に洗い清め、寺の裏山に葬ったといわれています。28年の短い人生でした。

明治2年（1869）、明治天皇は建武の中興に尽力した護良親王の遺徳を永遠に称えるため、この地に神社造営を命じ、自ら鎌倉宮と名付けたといわれます。

鎌倉宮から直線距離で数百メートルのところ、護良親王の墓はあります。



護良親王の墓の由緒を記した碑

6. 護良親王の墓

護良親王の墓がある理知光寺は、廃仏希釈政策により、明治4年（1871）に覚園寺に併合され、本尊の木造阿弥陀如来像は覚園寺の薬師堂に安置されています。今は理知光寺の跡地であることを示す石碑と宮内庁管轄地であることを示す石柱が立っています。ここの山頂に護良親王の墓はあります。一直線に登る急な長い階段を登ると柵があり、参拝客はここまでしか近寄れません。施錠された柵の向こうにも階段がありそのさきの頂上に護良親王のお墓が見えます。



護良親王の墓は奥の長い石段を上った山頂にある